

# 増える大径木～太くなるほど丸太は安くなる？～

『木は太くなればなるほど高く売れる』  
そう考えるのはごく自然のことかと思いますが、  
実際にはそうはいかない状況が生じています。

左は、H24年1月の日刊木材新聞の記事です。  
36cm以上の丸太は、34cm以下と比べて1m3  
あたり2,000円ほど安い状況が続いていること  
が報じられています。

住宅様式の変化により太い柱に需要が少なくなっ  
た等、さまざまな要因から大径木が安くなってい  
ると多くの媒体でとりあげられている（※）こと  
からも、大径木を有効活用してその価値を高める  
取組が新たな課題として求められている様子が伺  
えます。

## ※参考資料

- H29.4 森林技術「スギ大径材問題とは何か？」
- R2.2.18 日本経済新聞「大径木」丸太価格低迷
- R2.12 京都府立大学学術報告(公共政策)第12号  
国産材の利用の拡大と林業経営の発展のために
- R3.8 大館市「教えてはちくん！木づかい通信」vol.5

きたため、今後は九州北部を  
含めて杉の大径化は進むばか  
りだ。

林野庁の新生産システム事

36径上丸太は、用途が少な  
く歩留まりが上がらないた  
め、原木市場の相場でも、34  
径までと比べて2000円

合板メーカーと台車挽きによ  
る杉平角生産に限られている  
のが実情だ。  
だが、九州内及び周辺地域

## 芯去り構造材、厚板の需要開拓に期待

### 短伐期林業、再造林・植林補助を再検討

業を契機とした杉羽柄材、ラ  
ミナ等の大型量産製材工場が  
各地に立ち上がったことで、

(立方材)安の状況が続いて  
いる。  
「長く育てて価格が安くな

の合板向け需要量には限り  
がある。また、杉平角は九州内

以前と比較すれば34径まで  
の杉丸太が量産ラインに乗る  
ようになってきた。

るのでは林業が成り立たな  
い」といった山元からの切実  
な声は多いものの、36径上

をはじめ以前から国産材利用  
に理解のある消費地向け、公  
共建築物等木材利用促進法に  
よる木造物件、省エネ型住宅

だが、出材量が増えている

丸太を有効利用できるのは、

などで断熱性を高める柱用

